

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100126		
法人名	株式会社 さわやか倶楽部		
事業所名	グループホームみどりのき		
所在地	北九州市門司区大久保1-9-2		
自己評価作成日	平成22年7月26日	評価結果確定日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一回外出レクリエーションを企画、また、地域行事や門司港に遊びにいったりと、閉じこもりにならないようにしている。社内研修はもちろん、外部研修についても参加を促し、認知症介護実践者研修を受講した介護職員が2名在籍している。この項目を記入する7月26日時点で介護福祉士資格を保有している職員が7名中3名在籍している。目の前に海、後ろには山と、自然あふれる場所に建っており、環境が良い。隣接する同グループのさわやか和布刈館と一緒に夏祭りやレクリエーション、法人が所有する別府明礬温泉に行き、日々楽しみのある生活をして頂けるようにしている。地域の民生委員の計らいで、近所の小学校との交流がある。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関門海峡が見渡せる高台の中腹に位置し、リビングは大きな掃きだし窓からウッドデッキへと続いており、リビングからの見晴らしもよく、開放感がある。民生委員の尽力により、小学校児童の訪問やふれあい昼食会への参加、隣家の方より畑の収穫物を頂くなど、日常のかかわりを通じた交流が行われている。自然とリビングやキッチンに利用者が集まり、利用者同志のなげない会話や一人黙々と食後の片付けを行う姿が見受けられるなど、あたり前の日常生活が展開されている。利用者一人ひとりの世界観を尊重し、利用者の何気なく発した言葉に隠された気持ちを探しながら、ケアへ取り組んでいる。今後更なる、利用者一人ひとりの心に寄り添ったさりげないケアへの取り組みが期待できる事業所である。

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年9月1日		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で安心した生活、個性能力の発揮という、法人の理念と共に事業所独自の理念を掲げて、日々、生活を入所者様と一緒にしている。	法人全体の理念“慈愛の心 尊厳を守る お客様第一主義”に基づき、日々のケアを通じて、理念の浸透に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われるふれあい昼食会に月1回参加している。また、地域の小学校との交流がある。民生委員より、運営推進会議にて情報を得ることができる。	併設施設で行われる行事への地域の方の参加、ふれあい昼食会への参加、小学校児童の来訪、隣家より畑の収穫物を頂くなど、日常的な交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、事例を取り上げ話し合っている。 外部へ向かって認知症の理解を促すような活動はまだできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事故報告や、行ったサービスの説明、ご家族の意向に対しての意見交換が行われる。 外部評価後、結果を報告したが、会議の度に評価への取組みができていくかの確認を行っていくことになる。	関係者を招いて2ヶ月毎に開催している。事業所からの報告の他、民生委員の方より情報を頂いたり、地域包括支援センター職員より提案を受けるなど、意見交換の場となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例があるため、地域包括センターと連携を図っている。 疑問点があれば確認するようにしている。	運営推進会議へ地域包括支援センター職員の参加がある。地域包括支援センター職員より、入居者を紹介していただくなど、連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束勉強会を今まで2度行っている。 今年度も行う予定 玄関の施錠は、走って飛び出してしまう方がおられ、常時開放することは難しいが、その方が落ち着いているとき、朝の清掃時は解放するようにしている。	月1度のミーティング時を利用して、勉強会への取組みがある。周辺症状に対する対応の仕方について、その都度、協議を行うなど、身体拘束について学んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成22年1月に虐待防止勉強会を行った。 今年度も行う予定 また、定期で入居者様のヒアリングを行っていく。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の成年後見人より、制度を説明してくれと頼まれればやりますよとの言葉を頂いているが、現状まだ行っていない。 今年度中に行っていく。	1名の利用者の方が、制度の利用申請中である。制度等についての家族への情報提供及び職員への勉強会への取組みなどは、これからである。	これからの支援の一角を担う重要な制度であることから、運営推進会議や家族会等を利用して広く情報を発信するとともに、職員に対して学ぶ機会を設け、制度の正しい理解と周知への取組みに期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り説明している。 また、不明な点は随時対応している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボードを作成している。また、苦情があった際には記録をとっている。親族のいない方がおられるせいか、苦情の数はさほど多くはない 今後、見えないニーズを探っていく。	面会時や運営推進会議時の声かけ・説明、一ヶ月の様子を記した手紙の送付などを通じて、家族の意見等の把握に努めている。出された意見等は、ミーティングや日々の申し送り時に協議・検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロアミーティングを開催し、職員との意見交換を行っている。 また、申し送りを活用し、話を聞いている。	月1度のミーティング、日々の申し送り時、その時々でのケアの場面を通じて、職員から、様々な意見が出されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の開設が各県で行われており、管理者、主任等の抜擢が行われている。それにより、給与水準も上がる。また、施設長、法人の両方が介護職員の評価を行うため、努力が認められる仕組みになっている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢により採用を控えるという事はしていない。 最近では男性の介護職員が増えてきている。 本人の希望により、研修に参加したい職員は、なるべく参加できるように取り計らっている。	職員の採用にあたっては、制限等は一切設けていない。新人研修を始め、法人内外で行われる各種研修への参加、経験年数に応じた研修参加への声かけなど、法人としての研修システムが確立されている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回行われている現任者研修で、たくさんのテーマについて勉強会を行っている。 その中で、人権教育等も盛り込まれている また、今後事業所でも行っていく予定である。	高齢者虐待の勉強会を通じて高齢者の人権について学ぶ機会がある。また、住職による講和のビデオ研修を通じて、職員の人権意識の喚起に努めている。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はもちろん、社外研修の参加希望者もできるだけ参加できるように取り計らっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に入会しているため、研修に参加する機会がある。また、同法人内にグループホームがみどりのきの他に3事業所あり、交流がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントは必ず行っている。その際には、ご家族、本人の意向を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントは必ず行っている。その際には、ご家族、本人の意向を聞くようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントでどのような支援が必要か把握するようにしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事全般、外出を生活のリハビリととらえ、職員と一緒にやっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡は密に行っている。まったく面会に来られないご家族はなく、何らかの形で支援して頂いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くの理髪店の利用、外食、親しい人の面会などがある。 家族の面会は頻繁にある。	利用者は、近隣地域に住んでいた方が多く、精神的な不安は少ない。行きつけの美容室の利用、ふれ合い昼食会に知人と参加するなど、馴染みの関係性への継続支援がある。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	門司に住まわれていた方が多く、地元の話で盛り上がっている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	成年後見人より要請があり、財産の関係で入居料の安い所に入居したいとの相談があった。成年後見人との連携は今でもあり、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案の際に、本人、家族の意向を確認する。 意思の疎通の難しい方は、職員、家族と話し合い、その方に合ったサービスを検討する。	日々のかかわりを通じて、利用者の思いや希望の把握に努めている。把握した思いや希望等は、センター方式の様式に記入し、情報の共有が図られている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを実施している。必要時は家族にも聞くようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式シートに本人の状態を書き込んでいる。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン原案作成後、サービス担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を立案している。	月1度のミーティング、日々の申し送り時に、職員個々の気付きを出し合い、モニタリングが行われている。短期目標は3ヵ月毎、長期目標は6ヵ月毎、及びその都度のミニカンファレンスにて、介護計画内容の見直し・再作成が行われている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やモニタリングの中から必要な情報を確認し、介護計画の見直しに生かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院後は特にしっかりとしたケアが必要になってくるので、ご家族、病院の先生と連携を図り、柔軟な対応を心掛けている。 ニーズが大きく変化したことはまだ1度もないがその時は柔軟な対応をしていきたい。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターで行われる、ふれあい昼食会、小学校訪問が行われた。3月には門司港レトロで行われた難人形展に行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターが月2回の往診を行っている。 希望者はかかりつけ医を変更せず、今までと同じ支援を受けられるようにしている	ホーム協力病院が在り、2週間に1度の往診がある。かかりつけ医や専門病院への受診は、基本は家族対応であるが、家族対応が難しい場合はホームでの対応である。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するさわやか和布刈館の看護師に入居者様の状態について相談をすることができる。 外部へ受診するかを相談し、外部へ受診することがあった。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の前は情報提供し、退院の際は、事前のアセスメントを行い、病院との連携を図っている。 また、見舞いに行った際に様子を看護師に聞くようにしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	8月末に行われる家族会にて、話し合う予定となっている。	家族に対して、運営推進会議、及び家族会時を利用して、終末期についての話しと家族の意向の把握に努めている。利用者本人の意向の把握は、これからである。	人生をどのように生き、どのように送るかの決定の権利は利用者にあります。日々のかかわりを通じて、利用者の思いの把握と情報共有に努め、利用者の更なる尊厳ある暮らしの支援への取組みに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時、AEDの使用方法を学んだ。 いざという時の為に、さらに訓練を続けていく。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は実施している。 地域との連携は、相談中の状態	併設施設との合同による、年2回の避難訓練が行われている。運営推進会議時に、避難訓練の反省点を述べるなどの提案は行われている。避難訓練への近隣住民の見学や緊急時の協力体制の構築等はこれからである。	まずは運営推進会議等を利用した避難訓練への働きかけや取組み、非常災害時の連絡体制の構築など、併設施設をも含めた地域との相互連携・協力体制づくりへの取組みを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の方針である、様付けの徹底をしている。	利用者の行動や様子を良く観察した上で利用者を尊重した声かけ、出来ることを見守りながらの支援、視線を合わせてのゆっくりとした会話など、利用者の自尊心に配慮した対応が見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族に電話したいと言われた方がいらっ しゃったので、家族確認の上、電話をした。 衣服を選ぶときは本人の希望に沿っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援している	ケアプランをもとに、その方に合ったサービ スを提供している。 起床時間や就寝時間はある程度本人に合 わせた対応を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支 援している	外出時は化粧をする。また、衣服を家族が 持ってきてくださる。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや 力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食 事、片付けをしている	入居者様の能力に合わせ、調理を職員と一 緒に行っている。調理が難しい方は、後片付 けと一緒にしている。	様々なメニューを参考に、職員による1ヶ月分 のメニュー作成とホームでの調理が行われて いる。自然とキッチンに利用者が集り、下ごし らえ、つぎわけ、食器洗い、片付けなど、利用 者・職員が協力して行っていた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確 保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた 支援をしている	毎食、食事量と水分量をチェックし、介護記 録に記入している。 必要な方は食事介助している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人 ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし ている	口腔ケアを毎食行っている。 必要に応じて介助している。 また、歯科往診があり、その方に合った治療 を行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排 泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを見ながら、どの時間帯にパツ ト、おむつが必要なのが見極めている。	排せつチェック表にて利用者毎の排せつパ ターンを把握し、利用者の行動等により支援が 行われている。1名のみが介助を要するも、日 中は利用者全員がトイレ使用である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヨーグルトをお出ししている。また、生活の中でのリハビリをすることによって運動量の増加を促している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週三回行っており、曜日は決めていない。基本的に日曜は行っていないが、希望者がいれば行う。 人員配置の都合で、夕食後以降の入浴は行っていない。	入浴の準備は毎日しており、基本は週3回の入浴であるが、利用者の希望や状況に応じて、柔軟に対応している。利用者毎に、石けん入れと石けんを準備し、気持ちよく入浴できるような支援がある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間がある程度、個人の生活習慣に合わせてられる。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院でもらえる薬情を、職員がいつでも見ることができるようにしている、 処方の変更があれば、職員に伝える。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族同行での外食や、音楽、裁縫など、本人の好きなことを見つけ出し、支援に生かしている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の希望をかなえることは現状できていない。普段行けないような場所でも職員が対応することにより、外出している。 不穏時、外出の訴えのある方に対し、その都度ドライブに行く。	日々の散歩、その都度のドライブや買物、月に1度の外食、ふれあい昼食会への参加など、利用者の希望や状況に応じた取組みがある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理されている方は少ないが、希望があれば自己管理をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい、手紙を出したいという訴えがあり、希望に沿って実行している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度はエアコンで一定に保たれている。部屋の扉にはトイレ、リネン庫など名前が書かれている。ベランダからの光が入り、共有部分は明るい。	リビング内は広く、大きな掃きだし窓からウッドデッキへと続いており、開放感がある。利用者が自然とリビングやキッチンに集う姿から、居心地の良さが伺えた。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋の一角にソファがあり、思い思いに過ごしていただけるが、仕切り等はない。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居や見学時に、家族に使い慣れたもの、好みものをあれば持ってきていただけるように伝えている。	各居室には、整理箆笥や衣装ケース、写真などが持ち込まれており、安心して過ごせる居室となっていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分、トイレは広く、車いすの方でも十分利用できる。部屋がコンパクトにまとまっており、何がどこにあるかわかりやすい。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		2010/9/22			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			